



TOKIO MARINE  
e.design

2024年版 / 2023年度決算

# イーデザイン損保の現状

# 2024

## はじめに

---

日頃よりイーデザイン損保をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

このたび、当社の経営方針、事業概況、財務状況など、事業活動についてご説明するため、ディスクロージャー誌「イーデザイン損保の現状 2024」を作成しました。

本誌が当社をご理解いただく上で、皆さまのお役に立てば幸いです。

※ 本誌は、保険業法（第111条）および同施行規則（第59条の2）に基づいて作成したディスクロージャー誌です。

なお、子会社については該当がありません。



## 会社の概要 （2024年3月31日現在）

---

名称	イーデザイン損害保険株式会社
英文名称	E.design Insurance Co.,Ltd.
設立年月日	2009年1月26日
資本金・資本準備金	イーデザイン損保設立準備株式会社として設立 706億7百万円（うち 資本準備金353億3百万円）
株主	東京海上ホールディングス株式会社 NTTファイナンス株式会社
従業員数	386人
本社所在地	東京都新宿区西新宿3-20-2 〒163-1413

# イーデザイン損保の現状 2024

## 目次

トップメッセージ	2
経営理念、ミッション・ビジョン・バリュー	3
(特集) 事故のない社会をつくる取り組み	4
トピックス	6

### 東京海上グループについて

東京海上グループ概要	8
東京海上グループについて	10

### 経営について

代表的な経営指標	14
2023年度の事業概況	16
お客さま本位の業務運営方針	17
お客さまの声	18
サービス改善の取組紹介	19
内部統制基本方針	25
コーポレートガバナンスの状況	27
コンプライアンスの徹底	28
個人情報の保護	31
勧誘方針	36
リスク管理	37
資産運用	38
情報開示	39
サステナビリティの考え方	40
サステナビリティの取り組み	42

### 商品・サービスについて

保険の仕組み	50
取扱商品	53
事故対応サービス	54
各種サービス	56

### 業績データ

事業の状況	58
経理の状況	68

### コーポレートデータ

沿革	86
主要な業務、株式の状況	86
会社の組織	89
ネットワーク	90
設備の状況	91
役員の状況	92
従業員の状況	94
新商品の開発状況	95
損害保険用語の解説	96

## トップメッセージ



取締役社長 **桑原茂雄**

平素より、イーデザイン損保をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当社は、2009年6月に東京海上グループとNTTグループの提携のもと、通販型損害保険会社として誕生しました。2021年4月には「ミッション・ビジョン・バリュー」を再定義し、新ミッション「事故時の安心だけでなく、事故のない世界そのものを、お客さまと共創する。」の実現に向けて、さまざまな事業活動に取り組んでいます。

2021年11月に本格発売したデジタル時代の共創型自動車保険「&e(アンディー)」(以下、&e)は、おかげさまで2024年4月時点で40万件以上のご契約をいただいております。お客さまをはじめ各ステークホルダーの皆さまのご支援に心から感謝を申し上げます。また、2023年度も過去からの継続取組として、「データで安全を作る」という趣旨のもと、お客さまや地方自治体・企業と、&eの運転データや交通安全に関連する各種データを活用した事故削減プロジェクト「Safe Drive With」や、地域に根差した交通安全の取り組みに対しての寄付プログラム「+まち(ぷらまち)」などを実施しました。

2024年4月からは、新中期経営計画がスタートしております。開業当初から販売してきました従来商品は2024年3月末で販売を終了し、&eに商品を一本化しました。&eの商品性・各機能をさらに進化させ、お客さま体験のさらなる向上を目指すとともに、事故のない世界の実現に向けた取り組みを加速させてまいります。

当社はこれからも、お客さまとともに保険業界の新しいかたちをつくることを目指してまいります。

今後ともより一層のご愛顧・お引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年7月

## 経営理念

お客様の信頼をあらゆる事業活動の原点におき、損害保険事業を通じて、お客様の豊かで快適な社会生活と経済の発展に貢献します。

- お客様のニーズを最大限に満たす商品・サービスを追求・創造・提供し、安心と安全をひろげます。
- 社員一人ひとりが個性を活かし、創造性を発揮できる自由闊達な企業風土を築きます。
- 良き企業市民として、地球環境保護、人権尊重、コンプライアンス、社会貢献等の社会的責任を果たし、広く地域・社会に貢献します。
- 株主の負託に応え、収益性・成長性・健全性を備えた事業を展開し、企業価値の向上をはかります。

## ミッション・ビジョン・バリュー

### ○ ミッション

事故時の安心だけでなく、事故のない世界そのものを、お客様と共創する。

### ○ ビジョン

#### Create a New Standard

保険業界の新しいかたちを、お客様とともに。

### ○ バリュー

#### 究極の安心・安全

(事故にあわない・事故を起こさない)

#### 究極の先回り

(疑問や不安を感じない)

#### 究極の快適性

(カンタン・わかりやすい・迷わない)

#### 究極の For Me

(私にぴったりで心地よい)

## 特集

# データで安全は作れるか？ 事故のない社会をつくる取り組み「Safe Drive With」

ここでは「データで安全を作る」という趣旨に賛同いただけるお客さまや地方自治体、企業とともに、お客さまの交通安全に関するデータを活用した事故のない社会の実現に向けた分析や研究を行うプロジェクト「Safe Drive With」(以下、「SDW」)を展開しています。

「SDW」では、蓄積された運転データから危険な場所を特定することや、カーライフをより長く安心・安全に楽しめるよう、認知機能の維持・向上を支援することなど、事故のない安全な社会の実現を目指して各種取組を進めています。

### 展開中の取り組み

#### (1)「魔の7歳」問題解決を目指す「もしかもマップ」

歩行中の交通事故死傷者数において7歳児が突出して多い状況<sup>(※1)</sup>、通称「魔の7歳」問題の解決を目指す取り組みとして、親子で道路上の危険箇所を発見しマップ上で可視化するWebサービス「もしかもマップ」を提供しています。約90の自治体から全国で8,000件を超える通学路の危険箇所を提供いただき、利用者からの投稿や警察庁のオープンデータ<sup>(※2)</sup>を含めて、58,700件を超える危険箇所をマップ上に見える化しています。(2024年6月現在)

また、取り組みの一環として、2023年9月に金沢大学 融合研究域 融合科学系 森崎裕磨 助教と共同で子どもの飛び出しを抑制する小型の見守りデバイス「おまもりもし子」の実証実験を実施しました。GPS連動で事前に設定した危険エリアに入った場合に音で注意喚起を行い、事故防止への効果を検証したところ、約3人に1人以上はアラート音を聞くと安全のために歩行スピードを落とし、飛び出しを防ぐことができるという結果が出ました。

今後は、実用化に向けて機能改善を行いながら、子どもの事故削減に向けた取り組みを推進してまいります。



※1 公益財団法人 交通事故分析センターが発表している「交通事故統計年報」によると、1994年(平成6年)から2020年(令和2年)までの27年間にわたって、歩行中の交通事故死傷者数において7歳児が突出して多い状況が続いており、この状況は「魔の7歳」と呼ばれ問題視されています。

※2 警察庁交通事故統計情報のオープンデータ(2020年1月1日-12月31日)による全国の交通事故データ

(2) エーザイ社との業務提携による高齢化社会における安全運転と運転寿命の延伸を目指すプロジェクト

より長く安全に運転を楽しめる社会の実現に向け、エーザイ株式会社が提供する脳の健康度セルフチェックツール「のうKNOW<sup>®</sup>」(※3)をご利用いただけるサービスをeアプリ上で2022年7月より提供開始し、累計1万人を超えるお客さまに実施いただきました。



脳の健康度チェックツールである「のうKNOW」に加え、2024年1月より、脳の健康度の維持向上を目的として、エーザイ社の「ブレインワークアウト(脳のトレーニングコンテンツ)」のサービス提供を開始しています。あわせて、脳の健康度の維持向上に取り組む中で、認知機能への不安を抱えたお客さまに対して、「記憶サポートデスクダイアル」を開設し、認知機能のお悩みやご不安に対しお電話を通じてサポートするサービスを提供しています。



※3 「のうKNOW」(非医療機器)は、疾病の予防や診断を目的としたものではなく、健康意識を高めるために行っていただくことを目的としています。

## トピックス

### お客さまの安全運転結果に応じて寄付する活動「+まち」、初となるお客さま投票による寄付先決定

2023年5月、&eの寄付活動「+まち(ぶらまち)」において、お客さまの投票によって寄付先を決定し、「山形県山形市まちづくり政策課」「山形県山形市道路整備課」の2企画に対して、それぞれ100万円ずつ、総額200万円を寄付しました。寄付により、「山形県山形市まちづくり政策課」では、ラウンドアバウト交差点の認知度向上や今後の普及を見据えた利用法の周知を目的としたラウンドアバウト交差点体験会が実施され、「山形県山形市道路整備課」では、接触事故防止のため、冬期除雪に影響が出ない路面埋設型の自発光式道路鏡の設置が行われました。引き続き、地方自治体とともに安全で快適な街づくりに貢献してまいります。

### モータージャーナリスト五味やすたかさんとのコラボ企画「Smart Driversチャレンジ」の実施

2023年8月、モータージャーナリスト五味やすたかさんとのコラボ企画として、&eご契約者さま向けのスマートフォンアプリ上で運転スコアを競う「Smart Driversチャレンジ」を実施しました。この企画の狙いは、“スマート”な運転をお客さまに実践していただき、事故のない社会を実現していくための共同プロジェクト「Smart Drivers Project」の取り組みをお客さまと一緒に広めていくことが目的です。

### 山梨県甲府市、ヤママップ社と「金峰山古道復活プロジェクト」を発足

当社は、山梨県甲府市、株式会社ヤママップ、金峰山を愛する登山者の会と「甲府市最高峰の金峰山に至る古道である御嶽古道の復活に関する事業」の実施についての連携協定を締結し、クラウドファンディング「金峰山古道復活プロジェクト」を発足しました。当プロジェクトでは、自動車保険会社としてのさまざまなデータを持つ当社とGPSアプリによる安全登山を提供するヤママップ社がバックアップし、より多くの方に安心・安全にご利用いただける林道整備に挑戦します。

### “Insurance Asia Awards 2023”を2年連続2部門受賞

Charlton Media Group主催の“Insurance Asia Awards 2023”において、「共創する自動車保険『&e(アンディー)』」と「データドリブン経営に向けたCoE(Center of Excellence)の設置・運営」が評価され、2部門で受賞しました。2年連続での受賞となります。

### HDI格付けベンチマーク「問合せ窓口」「Webサポート」最高評価の三つ星を獲得

HDI-Japan(運営会社:シンクサービス株式会社、代表取締役CEO 山下 辰巳)が2023年11月1日に発表した、HDI格付けベンチマーク2023年損害保険業界「問合せ窓口格付け」「Webサポート格付け」の両部門において、最高評価の三つ星を獲得しました。この格付けは、一般審査員(公募による一般ユーザ)と専門審査員(HDI国際認定オーディタまたはHDI国際認定資格取得者で一定の基準をクリアした方)が、HDIの国際基準に基づいて設定された評価基準に沿って、顧客の立場から、各評価項目を4点満点で評価し、結果を三つ星~星なしの4段階で格付けしたもので、お客さまサポートセンターにおけるお客さまに寄り添った対応と、Webサイトのわかりやすさ・使いやすさが評価されました。

### NTTドコモ社との協業:「ドコモの自動車保険」の提供を開始

当社と株式会社NTTドコモ(以下、ドコモ)は、ダイレクト型自動車保険「ドコモの自動車保険」の提供を2024年1月から開始しました。<sup>(※1)</sup>本保険は、保険料に対してdポイントがたまり、お支払い方法が「d払い<sup>®</sup>」<sup>(※2)</sup>の場合には、dポイントで保険料をお支払いいただくことも可能です。両社の連携を進めお客さま一人ひとりに合わせた安心で価値のあるサービスをお届けできるよう取り組んでまいります。

※1 本保険は、当社を引受保険会社とするダイレクト型自動車保険をドコモと株式会社ドコモ・インシュアランスが保険代理店(共同募集)として提供する自動車保険です。

※2 「d払い」は、ドコモの登録商標です。